

第2期札幌市スポーツ推進計画掲載事業の令和6年度（2024年度）実施状況

自己評価基準	◎：当初の予定通り事業を実施できたもの ○：概ね予定通り事業を実施できたもの ▲：予定通り事業を実施できなかったもの又は、計画最終年度において事業化に至らなかったもの -：外的要因等により実施しないこととしたもの又は規模を大幅に縮小したもの
--------	---

目標1 スポーツを通じて市民が生き生きとくらすまち

方針1 誰もがスポーツに参加できる機会の創出

施策1 子ども、仕事や子育て中の世代、高齢者のスポーツ参加を促進します

(1) 子どもがスポーツに参加する機会の提供

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
こどものスポーツ参加のきっかけづくり	カーリング普及促進事業 (アスリート発掘・育成・活用事業)	カーリングに親しむきっかけづくりのほか、競技力向上を目指し継続的に取り組む環境を提供します。	2024:493名(154回) 競技力向上のため行ったレベル別カーリングスクールには2,495名(573回)の参加があった。どうぎんカーリングスタジアムの改修工事が2024年2月から10月までであったため例年に比べ参加者は減少している。	○
	ウインタースポーツ塾 (アスリート発掘・育成・活用事業)	子どもたちを対象に自由に参加できる「さっぽろっ子スケートチャレンジ検定」の実施やウインタースポーツを体験できる機会を提供します。 体験実施種目：クロスカントリースキー、ジャンプ、リュージュ、スノーボード、カーリング、フィギュアスケート	2024:「さっぽろっ子スケートチャレンジ検定」は延べ929人が参加。体験会は、夏期520人、冬期は1,580人の参加があった。	
	地域スポーツ指導者派遣事業 (ウインタースポーツ普及振興事業)	ウインタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してウインタースポーツを始めるきっかけづくりと学習環境の充実を図る	2024:中学校体育授業の補助指導者として、19校に延べ423人派遣。	
冬季における子どもの運動機会の増進	さっぽろっ子ウインタースポーツ料金助成 (ウインタースポーツ普及振興事業)	ウインタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してリフト料金・スケート貸靴料金の助成を行い、スキー、スケートに親しむ機会を創出します。	2024:料金補助券を配付(スケート貸靴料金、スキーリフト料金、スキーレンタルセット料金)使用者数延べ23,882人。	◎
	冬季における子どもの運動機会増進事業	冬季における運動機会の確保及び増進のため、子どもたちに対してスポーツや身体を動かすことの楽しさを体感できる機会を提供します。	2024:34,293人	
子どもの体力向上推進事業	子どもの体力・運動能力向上事業	子どもの体力、運動能力を向上させるために、主に運動が苦手(嫌い)な子どもや運動機会が少ない子どもを対象とした取組の一層の充実を図ります。	体育の時間を除く1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合 小男7.9、小女13.2、中男11.2、中女25.3	○
地域スポーツ指導者の中学校への派遣	地域スポーツ指導者派遣事業 (ウインタースポーツ普及振興事業)	ウインタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してウインタースポーツを始めるきっかけづくりと学習環境の充実を図る	2024:中学校体育授業の補助指導者として、19校に延べ423人派遣。	◎
児童会館 中学生・高校生夜間利用「ふりーたいむ」の実施	児童会館 中学生・高校生夜間利用「ふりーたいむ」	児童会館において、開設時間を週2回午後9時までに延長することにより、中・高校生の放課後の居場所の確保を図る。	[実施館数] 108館(令和6年4月元町北ポプラ児童会館開館) [利用人数] 56,139人	○

(2) 仕事や子育て中の世代に対するスポーツ機運の醸成

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
スポーツに対する意識の改善	大通駅～バスセンター前駅地下コンコース内へのサイン掲出	地下鉄利用者のサービス向上に加えて、市民のスポーツ意識の啓発を図るため、大通駅・バスセンター駅間の距離、歩行による消費カロリー、スポーツ標語を示したものに更新。	バスセンター前駅地下コンコース内にサイン(スポーツ啓発ポスター)を引き続き掲出した。	◎
子育て世代のスポーツ参加に向けた取組	各区体育館におけるスポーツ教室事業等(体育施設運営管理事業)	利用者のニーズに合わせた、親子対象教室や託児付き教室を自主事業として実施	体育館グループにおいては厚別区体育館他2施設にて親子参加型の運動教室を実施。温水プールグループは平岸プールにて親子参加型水泳教室を実施。	○
ウォーキングの推進 (各区におけるウォーキング推進事業)	「ウォークさっ歩ろ」の啓発	ウォーキングを通じて、市民の皆さんがいままで元気であり続けること、そして札幌が「歩きやすい街」、「歩いて楽しい街」、「歩きたくなる街」として、国内外に広く知られるようになることを目指す。	各区で作成しているウォーキングマップを引き続き配架	◎
	ぼっぴいはっぴいプラン～地域とつくる「きたまち」すこやか事業～(北区)	区民の健康寿命延伸に向け、区まちづくりキャラクター「ぼっぴい」を活用し、地域と連携して区民の健康づくりへの関心を高めるための各種事業を行う。	ノルディックウォーキング講座 アプリでぼっぴいウォーキング+1000 ぼっぴいウォーキング会	
	各区における運動習慣等推進事業(東区健康づくり推進事業)	関係機関と連携しながら区民が健康づくりに取り組むきっかけとなる機会を提供し、運動習慣の利点等を普及啓発することにより、東区民の健康意識の向上を図ります。	ウォーキング体験会4回 ウォーキングイベント2回 ウォーキング教室2回 このほか健康教育等を通して、運動習慣のきっかけづくりの啓発を実施	
各区における運動習慣等推進事業(健康づくり普及啓発事業(白石区))	健康を意識し、運動や食生活改善に向けて自発的に行動する区民を増やすため、白石区内のウォーキングマップを活用したウォーキング事業等の実施により、気軽にウォーキングに親しめる環境を整える。	区民ウォーキング会開催(桜、歴するべ)：2回(70人) 区民ウォーキング会再開に向けたコース下見：2回(32人)		

ノルディックウォーキングを通して地域の食とつながる元気アップ事業(厚別区)	食育とノルディックウォーキングの取組を通して、区民の心身機能の向上を支援し、さらに地域の魅力を再発見しながら住民同士のつながりを深め、良好な健康習慣の維持を目指します。	・ノルディックウォーキング講座(年3回) →6月、9月、10月に3回実施。計261名が参加した。
各区における運動習慣等推進事業(健康づくり普及啓発事業)(豊平区)	地域が行う健康づくりイベント等を支援し、自分の健康を知り、「予防・健康づくり」に対する意識の醸成を図るとともに、幅広い世代にウォーキング等を通じた運動の習慣化を促進します。	健康フェア等の開催地区数 2024:7地区 参加型ウォーキングイベント オンラインイベントを開始(R7.3~) 地域のウォーキングイベントの支援 2026:2地区で支援を実施
各区における運動習慣等推進事業(冬も楽しむウォーキング推進事業(南区))	冬もウォーキングを楽しむ人を増やすため、雪道の安全なウォーキング方法の周知やウォーキングを実践している団体への支援、栄養・食生活とウォーキングを組み合わせた健康づくりイベント等を実施する。	秋・冬のウォーキングイベントで「冬の運動」「食・栄養」に関する啓発を併せて行ったほか、冬の健康づくりに向けた食育講座を開催した。また、地域でウォーキングなどの自主活動を行う団体を対象に研修会を開催した。
1か月チャレンジ！自分の目標でいきいきウォーキング(手稲区)	参加者自らが1か月間の目標を設定して、1日の歩数や歩いたコースを記録することにより、目標を明確化し、運動量の可視化することで、ウォーキングの習慣化に繋げる。また、ウォーキングマップの利用によるウォーキングの普及啓発の一環とする。	2024:184人

(3) 高齢者がスポーツを楽しむ機会の提供

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
全国健康福祉祭「ねんりんピック」への選手派遣	ねんりんピックへの選手派遣	高齢者を中心とするスポーツ・文化・健康・福祉などの総合的なイベントである「ねんりんピック」に、選手を派遣	12種目94名の選手を派遣した。	◎
老人福祉センターにおける健康増進の場の提供	老人福祉センター運営	地域の高齢者の健康増進を図るため、老人福祉センターにおいて運動や介護予防の機会を提供	健康増進に関する教養講座を10館で計61講座実施した。	◎
老人クラブへの活動支援	老人クラブ活動費補助事業	健康づくり活動などの生活を豊かにする活動等を行っている老人クラブや、その活動の育成指導や連絡調整を行う老人クラブ連合会の活動を支援	319のクラブ(計15,991名の会員)や老人クラブ連合会に補助金交付を行い、1クラブ当たり平均362人が「地域を豊かにする社会活動」に参加した。	◎

(4) 様々な市民ニーズに応じたスポーツ参加機会の提供

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
新しいタイプのスポーツクラブ(総合型地域スポーツクラブ)の育成	新しいタイプのスポーツクラブ(総合型地域スポーツクラブ)の育成	新しいタイプのスポーツクラブ(総合型地域スポーツクラブ)を育成するためのモデル事業を実施	多様目(キンボール、ミニバレー、タグラグビー、ドッジボール、かけっこ)のスポーツ体験ができるモデル事業を市立学校1校で実施。	◎
札幌市民カレッジの実施	さっぽろ市民カレッジ	札幌市生涯学習センターを拠点として「さっぽろ市民カレッジ」を開校し、ダンスやフィットネスなど、老若男女が気軽にスポーツを体験できる講座を提供する	スポーツ・健康コースとしてヨガや体幹トレーニング、ウォーキング等の講座を実施し、スポーツを体験できる機会を提供した。(スポーツ・健康コース開講数:42講座/受講者数:621人)(市民カレッジ全体の会校数:207口/受講者数:3,879人)	◎
様々な世代の市民が目的に応じてスポーツに参加できる機会の提供	タッピーウェルネス動画の作成・広報・体験会実施(健康・スポーツを活かした地域活性化事業(東区))	区民の「運動習慣づくり」と「東区の魅力発信」を目的として、誰もが気軽に始められて、日常的に実施できる運動を紹介する動画を制作し、幅広い世代の区民(市民)が運動習慣を身に付けるきっかけづくりとする。	・作成本数:2本 ・再生回数:19,541回 ・体験会参加者数:142人 ・スポーツ健康への関心向上:84%	○

施策2 スポーツを通じて市民生活の質の向上を図ります

(1) 市民の自主的な健康づくりの推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
地域における健康づくり活動の支援	地域における健康づくり活動推進事業	地域が主催する健康づくりや福祉イベント等を支援することで、地域の健康づくり活動の充実を図るとともに、参加者の健康づくりへの意識づけ及び行動の実践・継続を促します。	区内6地区すべて、計12事業に参画し、健康測定、健康体操、運動啓発などを実施。上記事業には計434人が参加した。	◎
	タッピーウェルネスラリー(健康・スポーツを活かした地域活性化事業)	東区内で実施される健康・スポーツ関連事業や施設を巡ると景品が当たるスタンプラリーを実施。各事業・施設の認知度向上と誘客促進を図り、区民の健康・スポーツに関する意識を向上させ、運動のきっかけづくりとする。	・参加者:325人 ・1人あたりの周遊数:6.3件 ・スポーツ健康への関心向上:86.2%	
公園などの散策できる場の提供	公園造成事業	みどりを保全・創出し、都市の魅力を高めるほか、幸福感のある日常生活を市民に提供するため、環境保全やコミュニティ形成、レクリエーションなどの多様な機能を有する公園を整備する。	2024:厚別山本公園の整備率74% 厚別山本公園の造成工事(アクションスポーツ広場、パークセンター等)	◎
	地域と創る公園再整備事業	公園に対する地域ニーズの変化や少子高齢化等の社会情勢の変化に対応するため、老朽化した身近な公園を再整備する。	2024:地域の核となる公園のうち、再整備が実施された公園の割合46% 地域の核となる公園の全面再整備工事を実施した。(東苗穂公園、白石公園、東橋公園など)	
	安全・安心な公園再整備事業	誰もが公園を安全に安心して利用できるよう、老朽化した公園施設の更新や部分的な機能再編、バリアフリー化等を実施する。	2024:総合・運動・地区公園のうち、再整備が実施された公園の割合18% 運動公園・地区公園などの再整備工事を実施した。(農試公園、屯田西公園、清田西公園など)	

ICTを活用したスポーツで得られた医学的知見の情報発信	スポーツによる新たな健康増進推進事業	スポーツで得られた医学的知見等により、市民の健康増進を図る取組の検討を行う。	過年度調査の結果等を踏まえ、モデル事業として「身体診断セルフチェック・個別相談会」を実施。 【実施概要】 実施日時：2025年3月9日13～16時 会場：札幌市西健康づくりセンター 協力団体 ・北海道スポーツ医・科学コンソーシアム ・札幌市スポーツ協会 実施内容 ・スポーツ庁が公開しているセルフチェックの体験及びチェック結果を踏まえた助言 ・運動・スポーツ等に関する個別相談 参加者：62人。	◎
運動習慣等の獲得の推進	運動習慣等推進事業	健康教育事業や健康フェア等の測定会・パネル展、市民健康教育・地域健康教室、健康づくりサポーター派遣事業、各区ウォーキングマップの作成・配布などを通じて、運動習慣等の獲得を推進します。	運動に関する健康づくり事業の参加者数(累計) 2024：53,011人 各区で健康教育や健康イベント等を通して、運動習慣のきっかけづくりのための啓発を実施	◎
ウェルネス推進事業	ウェルネス推進事業	健康寿命延伸を図るため、産学官連携により市民の健康意識の向上や健康行動の変容を促す取組を実施する。	[協定締結企業等によるウェルネス推進事業に参加した市民の数] 2024：85,277人	◎

(2) 健康づくりセンターの活用

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
健康度測定の推進	健康づくりセンターにおける健康づくり事業(健康度測定)	健康づくりに必要な健康状態を把握するための医学的検査、運動負荷試験、体力測定などの検査を行い、これらに基づいて、健康づくりに関する生活・栄養・運動についての総合的な指導と個別運動プログラム作成などを行います。	健康度測定受診者数 2024：1,154人 (目標：2022：1,005人 → 2027：1,600人)	▲
有資格者による運動指導の推進	健康づくりセンターにおける健康づくり事業(運動指導)	市民の自主的な健康づくりを促進するため、健康運動指導士や理学療法士などが運動指導を行うほか、各区保健センターなどが主催する健康づくり事業へ有資格者を派遣し、集団的運動の実践指導を行います。	健康づくりセンター利用者数 2024：174,418人	-

(3) 冬の暮らしを生かした健康づくりの推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
冬季の健康づくりを兼ねた雪遊びを楽しめる機会の提供	スノーホッケー会場整備	雪上で気軽に楽しめるウインタースポーツとして札幌市が考案したスノーホッケーについて、会場を整備のうえ市長杯争奪スノーホッケー大会を開催	2025年2月23日(日)に開催し、161名の選手が参加した。 ※降雪量が少なく、会場整備は実施せず藤野小学校で実施した。	-
冬季における公園(スキー山)の活用促進	冬季における公園利用の推進	快適な冬のくらしを実現するために、スキーや雪遊びなど冬季の公園活用を推進します。	歩くスキーコースの設置及び道具の貸し出し(モエレ沼公園、川下公園、農試公園、前田森林公園等)や、スキー山で使用するソリの貸し出し(モエレ沼公園、農試公園等)、チューブソリの貸し出し(円山公園)等を実施	○
雪かきチャレンジ	雪かきチャレンジ	自宅周辺や公共性の高い場所等を除雪する活動を通して、児童生徒が雪に親しめるとともに、冬季における運動習慣の定着を図る。	10,485名の児童生徒が雪に親しみながら体を動かす習慣を身に付けるとともに、公共のために役立つ活動を主体的に行なった。 ●雪かきや雪遊びを10回以上行った児童生徒数 (目標：2022：14,638人→2027：15,000人)	▲

施策3 地域主体のスポーツ活動を支援・促進します

(1) 地域におけるスポーツ活動の支援

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
運動部活動の地域移行に向けた体制整備	部活動改革推進事業	部活動を単独で運営可能な部活動指導員の派遣等、専門的外部人材の活用により、部活動の更なる充実及び運営効率化を図るとともに、部活動地域移行及び地域スポーツ・文化芸術活動の機会確保に向けた検討を進めます。	・スポーツ・文化芸術に親しむ機会が十分にあると感じている中学生の割合(2024：86.3%・部活動へ専門的外部人材を115名配置(部活動指導員83名、特別外部指導者を32名))・部活動の地域移行に向けて、スポーツ庁・文化庁の委託を受けて、モデル事業(休日の部活動の管理運営を外部に委託するなど)を実施するなど検討を進めている。 2024：30運動部活動に派遣 派遣回数延べ400回	◎
体育振興会などの地域スポーツクラブの活動支援	体育振興会への活動支援	地域におけるスポーツ活動が活発に行われるように、体育振興会のニーズに応じて、講習会講師の紹介や利用可能な助成制度の紹介するなどの協力をを行う	2024：2件の講師派遣を行った。	○
地域スポーツ指導者の中学校への派遣【再掲】	地域スポーツ指導者派遣事業【再掲】(ウインタースポーツ普及振興事業)	ウインタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してウインタースポーツを始めるきっかけづくりと学習環境の充実を図る	2024：中学校体育授業の補助指導者として、19校に延べ423人派遣。	◎
地域住民が主体となるスポーツ振興事業への支援	未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業における各区のスポーツ振興事業	●スポーツ大会後援 区内の各種団体が体育振興・区民交流などを図る目的として開催するスポーツ事業を後援することにより、区民にスポーツに対する興味・関心を持ってもらう。 【後援を予定している大会】 中央区長旗争奪少年野球大会 中央区長杯パークゴルフ大会 札幌中央区中学生バドミントン大会	・中央区長旗争奪少年野球大会 令和6年6月15日、16日、22日、23日 参加人数：266人(選手) ・中央区長杯パークゴルフ大会 令和6年6月28日 参加人数：102人 ・札幌中央区中学生バドミントン大会 令和6年12月27日 参加人数：220人	

スポーツ振興(清田区)	<ul style="list-style-type: none"> 区内競技団体と清田区が、各競技の区長杯大会等を共催(一部後援)し、清田区は体育館使用料と、大会使用物品等の提供による支援を行う。 清田区スポーツ推進委員会及び清田区スポーツネットの事務局として、イベントの開催等を担う。 子ども走り方教室等のイベント実施を検討。 SIUスポーツクラブ(札幌国際大学)と連携し、区民のスポーツ参加や健康増進に向けて取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 区内競技団体との共催(後援)により、区長杯等の大会を実施 清田区スポーツ推進委員会、清田区スポーツネットとの共催により各種イベントを開催 清田区民センターとの共催により、子どもかけっこ教室を開催 SIUスポーツクラブ(札幌国際大学)との共催により、スポーツイベントや健康促進イベントを実施 	◎
-------------	--	---	---

(2) 区の特徴やスポーツ施設を活用したスポーツの普及促進

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
区の特徴を生かしたスポーツ振興事業の実施	スポーツフェスタin白旗山	スポーツの日(旧:体育の日)に白旗山競技場において、広く区民に対してスポーツ等に親しむ行事を行う団体の活動に対して、助成金を交付する。	「スポーツの日」に白旗山競技場において、「スポーツフェスタin白旗山」を企画・運営したスポーツフェスタin白旗山実行委員会に対し助成金を交付 イベント当日の来場者数は約3,500人	◎
	サッカー体験会in札幌緑小学校(健康・スポーツを活かした地域活性化事業)	東区を拠点に活動する女子サッカーチーム「ノルディア北海道」と連携し、幅広い世代の区民が気軽にスポーツに触れられるイベントを実施することで、スポーツに関する興味喚起と地元チームへの愛着形成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 参加者: 38人 連携: 3団体 スポーツ健康への関心向上: 児童100%、保護者94.7% 	
	とよひらスポーツ応援プロジェクト事業	スポーツによる健康で活力のある社会の実現に向けて、多数の国際規模のスポーツ施設がある区の特長を最大限に活用し、区民がスポーツを楽しむきっかけとなる場を提供します。	<ul style="list-style-type: none"> [イベント参加者のスポーツに対する意識向上割合] 2024: 80% [イベント参加者数] 2024: 5,720人 	
	冬も楽しむウォーキング推進事業(南区)	冬もウォーキングを楽しむ人を増やすため、雪道の安全なウォーキング方法の周知やウォーキングを実践している団体への支援、栄養・食生活とウォーキングを組み合わせた健康づくりイベント等を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 実施した事業は以下のとおり。 チャレンジ! スポーツパークへの参画(スポーツバイキングが中止となったため代替として参加。上記イベント参加者数にはチャレンジスポーツパーク全体の参加者数を含めている。) とよひらkidsスポーツ体験会(とよひら親子フィギュアスケート体験会、とよひら親子モルック体験会、スポーツクライミング&パラスポーツフェスティバル) 豊平区スポーツ推進委員会との共催事業(カーリング交流会) 	
	手稲区スポーツ・レクリエーション祭	「いつでも・どこでも・いつまでも」をモットーに、子どもから高齢者まで幅広い世代が、気軽にスポーツやレクリエーションを楽しみながら、家族や地域と交流を図り、生涯スポーツ社会の実現を目指すことを目的に、様々なスポーツを体験できるイベントを開催する。	秋・冬のウォーキングイベントで「冬の運動」「食・栄養」に関する啓発を併せて行ったほか、冬の健康づくりに向けた食育講座を開催した。また、地域でウォーキングなどの自主活動を行う団体を対象に研修会を開催した。	2024: 406人
(未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業)	(中央区)	<ul style="list-style-type: none"> ● 2024年2024アタック・ザ・531M(藻岩山ファミリー登山) 札幌市民に親しまれている藻岩山での登山を通じて、家族や友人との絆を深めるとともに、自然に親しむことにより、豊かな自然を守る意識を育てることを目的とする。 区内在住または中央区に通勤・通学している方を対象とする。登山ルートは旭丘高校をスタート地点として、慈啓会病院登山口から藻岩山頂まで(山頂で解散)。 	実施日: 令和6年6月30日(日) 参加者数: 51名(定員60名(事前申込者数78名)、当日欠席27名)	
		<ul style="list-style-type: none"> ● 第21回中央区インドア雪合戦大会 室内で手軽にできるインドア雪合戦を通じて、子ども達の親睦や交流の輪を広げ、チームみんなで競技することの喜びを感じてもらい、チームワークの大切さを知ってもらうとともに雪合戦という昔からある遊びを新しいスポーツとして広めることを目的とする。 区内の小中学生を対象にチーム対抗により屋内で雪合戦(雪合戦練習用雪玉を使用)を行う。出場チームは小学校の低学年と高学年の部に分かれ、それぞれの部の上位3チームにメダル・賞状を授与する。 	実施日: 令和6年10月26日(土) 参加者数: 65名(選手57名、監督8名)	

	<p>●Cスポーツパーティー 子ども(主に小学生)を対象に様々なスポーツを体験する機会や場所を提供することで、体力や運動能力の向上及び健康増進を図り、体を動かす楽しさを再認識してもらうこと、また、子どもと子育てに携わる大人がスポーツに継続的に取り組むきっかけをつくることを目的とする。 子どもプログラム(バスケットボール、かけっこ、アイスホッケー、フットサル、ダブルダッチ、フラッグフットボール)のほか、誰でも参加できるプログラム(モルック、フロアカーリング、エスキーツニス、アリーナウォーキング等)を実施する。</p> <p>●雪あそびフェスタin中島公園 子どもたちの外遊び等の機会を創出すること及び区民の交流と健康の増進を図るため、中央区の地域資源である中島公園を活用し、雪上での様々な運動・遊びを通じて、体を動かすことの楽しさを感じてもらうことを目的とする。 プログラム(的あて、雪上モルック、ゴルフカ、かんじき散策、チューブすべり、そりすべり、雪中宝探し)</p>	<p>実施日:令和6年8月25日(日) 来場者数(延べ人数):1,401人</p> <p>実施日:令和7年2月8日(土) 来場者数(延べ人数):509人</p>
(北区)	<p>●北区少年少女スポーツ大会 少年少女の相互交流を図り、少年少女の健全育成にあたるためスポーツ大会を開催する。</p> <p>●北区ポッチャ体験会 年齢、性別、障がいの有無に関わらず誰でも気軽に始められる「ポッチャ」を通して、区民の健康・体力づくりと地域住民の交流を図る。</p> <p>●冬季スポーツイベント 冬季スポーツ種目の大会等の実施を通じて、冬季における区民の健康・体力づくりを図る。</p>	<p>令和6年7月28日に、北区の小学生を対象として、北区スポーツ推進委員会との共催、レバンガ北海道、北海道コンサドーレ札幌との協力により、バスケットボール・バドミントン体験教室を実施し、144人が参加した。</p> <p>令和6年10月27日に実施予定であったが、第50回衆議院議員総選挙の投開票日と重なったことにより会場である北区体育館が使用できなくなったため中止した。</p> <p>令和7年2月16日に、区民を対象に、北区スポーツ推進委員会との共催により冬季スポーツ大会(雪合戦)を実施し、142人が参加した。</p>
(東区)	<p>●ひがし健康・スポーツまつり 健康・スポーツ・食をテーマに、幅広い年齢層の多くの区民が参加・体験できるようなイベントを実施し、健康のための食習慣・運動習慣を身につけるきっかけの場を提供する。</p>	<p>参加人数:約1,300人</p>
(白石区)	<p>●ニュースポーツふれあい事業・白石区子どもスポーツチャレンジ 事業年齢、性別、障害の有無といった様々なハードルを越えて、誰もが気軽にゲーム感覚で楽しむことができるニュースポーツを通じて、普段スポーツを行っていない高齢者や子どもたち等が、気軽に体を動かすことにより、区民の健康づくりや交流促進を図る。</p>	<p>・ニュースポーツふれあい事業(ニュースポーツ用具貸出) →利用人数26,438、利用団体数166 ・白石区子どもスポーツチャレンジ事業(子どもなわとびチャレンジ) →参加者248名</p>
	<p>●マラソン大会・野球大会・卓球大会・武道大会・スポレク大会 各種スポーツ大会の実施や支援を行い、子どもから高齢者まで幅広い世代の住民が気軽にスポーツに親しむことができる環境を整え、スポーツを通じたまちづくりの推進を図る。</p>	<p>・マラソン大会 555名参加 ・野球大会 16チーム参加 ・卓球大会 80名参加 ・武道大会 116名参加 ・スポレク大会 80名参加</p>
(豊平区)	<p>●プロスポーツ応援デー連携事業 豊平区内にスポーツ施設が多数存在する特色を生かした「スポーツによるまちづくり」を推進するため、各施設を拠点に活動するスポーツチームによる区民応援デーの広報協力を行うほか、各チームとの連携により、競技に対する興味関心や地元チームへの愛着を深めるような体験型イベントを実施する。</p>	<p>■各体験会(教室)参加者数 【コンサドーレ】 8/13 グリーンキーパー+サッカー体験会 13名 2/2 バドミントン体験会 25名 【レバンガ】 1/10 ダンス体験会 27名 【エスボラダ】 11/17 フットサル体験会 47名 【ノルディーア】 10/5 サッカー体験会 35名</p>
(南区)	<p>●第51回南区少年少女親善スポーツ大会(ポッチャ体験会) スポーツの得手不得手や障がいの有無に関わらず、すべての人が一緒に競い合せて、誰でも楽しめるポッチャの普及を目指すとともに、子どもたちへスポーツの楽しさを伝える、親睦交流を深める。</p> <p>●あつまれ!まこまないの森 スポーツを通じた子どもたちの健全な発育・発達及び体力増進を目的として、ツリークライミング及びオリエンテーリングの体験会を開催する。</p>	<p>対象者(小学生)定員96人に対し 事前申込者数:50人 当日参加者数:43人(欠席7人)</p> <p>対象者(小学生)定員48人に対し 事前申込者数:48人 当日参加者数:36人(欠席12人)</p>

方針2 多様なニーズに合わせてスポーツに取り組める場の確保と充実

施策4 身近にスポーツに親しめる場所や機会を充実させます

(1) 安心・安全なスポーツ施設の提供

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
	札幌ドーム保全事業	計画的に保全改修を行い、大規模イベントなどを継続的に開催できる環境を保ちます。	(計画期間中の保全実施率) 2024:39%	◎

スポーツ施設の計画的な保全、改修	スポーツ施設リフレッシュ事業	市民が安全・安心・快適にスポーツに親しめる環境を維持していくため、スポーツ施設の計画的な保全、改修、大型備品の更新を行います。トラック全面改修や競技関連備品の購入を行い、全国大会や国際大会の開催ができる陸上競技場とします。	(保全業務等の実施により延命化できた計画期間中の累計施設数) 2024:12施設 (世界陸連クラスII認証及び日本陸連第1種の公認継続) 2024:公認	
	厚別公園競技場保全事業	市民が安全で快適にスポーツを楽しめる環境を整えるために厚別公園競技場交流施設(フズ)の老朽化が進んでいるリフトの更新を行います。	(リフトの更新) 2024:更新工事	
	藤野野外スポーツ交流施設リニューアル事業	今後の人口減少や超高齢社会、多様化するニーズに対応したスポーツ施設の再配置・再整備を行うため、美香保体育館更新や大倉山ジャンプ競技場等の改修を実施します。	【美香保体育館】 美香保体育館の後継施設である新スケート・カーリング場について、つどーむ敷地における施設整備に係る基本計画を策定した。 【大倉山ジャンプ競技場】 大倉山ジャンプ競技場等に係る改修の考え方を公表した。また、環境調査(春、夏、秋)を実施した。	○
将来を見据えたスポーツ施設の再整備	スポーツ施設再整備事業	高次機能交流拠点である「札幌ドーム周辺」において、スポーツや集客交流産業の振興などに関わる拠点性および札幌の魅力と活力の向上を先導することを旨とした「スポーツ交流拠点」を整備します。	・札幌ドーム周辺におけるスポーツ交流拠点の形成に向け、民間事業者2者から提案された事業手法などの精査を行うとともに、その内容も参考に拠点整備の方向性について検討を進めた。	
	札幌ドーム周辺活用推進事業	市民の誰もが年齢や体力、経験、目的の違いに応じ、スポーツ活動を行うことができる環境づくりを進めることを目的として、屋外で多様なスポーツを体験できる新たな場を創出します。	(市民運動広場の整備) 2024:造成工事	
	(仮称)新琴似市民運動広場整備事業	硬式野球場の不足に対応するため、既存の軟式野球場を硬式野球場に改修します。	(硬式野球場の整備) 2024:工事竣工	
	硬式野球場整備事業			

(2) スポーツを実施する場や機会の提供・情報発信

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
学校施設開放の実施	学校施設等開放事業	小学校及び中学校、特別支援学校の体育施設(体育館、グラウンド、格技室)及びファイターズ屋内練習場を開放し、身近なスポーツ活動の場を市民へ提供します。	2024年度も小中学校の体育施設を市民へ開放し、市民のスポーツ活動の場の提供を継続。2024年度の利用率:89.5%	◎
北海道日本ハムファイターズ屋内練習場の市民開放	ファイターズ屋内練習場市民開放事業	ファイターズ屋内練習場を小中学生が使用する際の経費を補助	小、中学生の利用回数120回に対して補助を行った。	◎
大和ハウスプレミストドームの活用促進	札幌ドームアマチュア大会促進事業	全市全道規模のアマチュアスポーツ大会を開催する際に利用料金を低廉な金額とすることにより、市民が札幌ドームを直接利用する機会を創出します。	アマチュアスポーツ大会にかかる札幌ドームの来場者数 59,406人	◎
スポーツ関連情報の効果的な提供	スポーツ関連情報の効果的な提供	公式ホームページ、広報誌のほか、イベント出展などを通じて随時情報提供	各事業においてそれぞれ実施	○
情報提供の一元化	一元的な情報提供の実施	市有スポーツ施設や類似施設の利用案内、予約等に係る情報提供の一元化する。	札幌市公共施設予約システムを活用し、市有スポーツ施設や類似施設の利用案内、予約等を一元的に情報提供を行った。	○

施策5 市民ニーズに応じたスポーツ施設等を充実させます

(1) スポーツ施設サービスの充実

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
スポーツ施設供用時間の延長の検討	どうぎんカーリングスタジアムの供用時間の延長(体育施設運営管理事業)	競技力の向上と裾野拡大を図るため、ネーミングライツを財源として、開館時間を延長(月～木:1時間、金・土:2時間)	2023年4月1日～2024年2月4日(年末年始、整備日、氷張替休館、コロナウイルス休館除く)実施。	○
スポーツ施設におけるアスリート・障がい者スポーツ枠新設の検討	スポーツ施設の戦略的活用	アンケート調査の実施	アンケート調査の実施(令和6年3月実施)	○

(2) 民間事業者による施設整備への補助

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
アクションスポーツなどの練習施設整備補助	スポーツ施設整備費補助事業	民間企業等が行うスポーツ施設の整備に対して、整備費の一部を補助することで、市民がスポーツに親しめる環境を整え、スポーツ活動の場を市民へ提供します。	補助件数6件(累計) (2019:2件、2020:1件、2022:1件、2023:1件、2024:1件) (目標:2022:4件→2027:14件)	▲

(3) スポーツを通じた集客交流拠点づくり

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
大和ハウスプレミストドーム周辺活用の推進	札幌ドーム周辺活用推進事業【再掲】	高次機能交流拠点である「札幌ドーム周辺」において、スポーツや集客交流産業の振興などに関わる拠点性および札幌の魅力と活力の向上を先導することを旨とした「スポーツ交流拠点」を整備します。	・札幌ドーム周辺におけるスポーツ交流拠点の形成に向け、民間事業者2者から提案された事業手法などの精査を行うとともに、その内容も参考に拠点整備の方向性について検討を進めた。	▲
将来を見据えたスポーツ施設の再整備【再掲】	スポーツ施設再整備事業【再掲】	今後の人口減少や超高齢社会、多様化するニーズに対応したスポーツ施設の再配置・再整備を行うため、美香保体育館更新や大倉山ジャンプ競技場等の改修を実施します。	【美香保体育館】 美香保体育館の後継施設である新スケート・カーリング場について、つどーむ敷地における施設整備に係る基本計画を策定した。 【大倉山ジャンプ競技場】 大倉山ジャンプ競技場等に係る改修の考え方を公表した。また、環境調査(春、夏、秋)を実施した。	○

札幌ドーム周辺活用推進事業【再掲】	高次機能交流拠点である「札幌ドーム周辺」において、スポーツや集客交流産業の振興などに関わる拠点性および札幌の魅力と活力の向上を先導することを目指した「スポーツ交流拠点」を整備します。	札幌ドーム周辺におけるスポーツ交流拠点の形成に向け、民間事業者2者から提案された事業手法などの精査を行うとともに、その内容も参考に拠点整備の方向性について検討を進めた。
-------------------	---	--

方針3 世界で活躍するトップアスリートの輩出

施策6 アスリートの発掘や育成を支援し、競技力の向上に取り組めます

(1) アスリートの発掘・育成支援

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
スポーツ施設を戦略的に活用したアスリートの発掘・育成	さっぽろジュニアアスリート発掘・育成(アスリート発掘・育成・活用事業)	優れた素質を有する子どもたちを早期に見出し、札幌から世界に羽ばたくトップアスリートの育成を図る。	2024:483人	○
さっぽろアスリートサポート事業	さっぽろアスリートサポート事業	次世代のトップアスリート育成及び札幌市のスポーツ活動の充実と発展に寄与する団体・個人のスポーツ活動を促進します。	大会出場支援件数 累計870件(2024:計262件)	◎

(2) 総合型ハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)の誘致に向けた取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
HPSCや大学、アスリート、競技団体等との連携強化	総合型ハイパフォーマンススポーツセンター誘致事業	冬季オリパラ招致を目指す都市として、ウインタースポーツの振興や競技力の向上に向けて、総合型ハイパフォーマンススポーツセンターを誘致	・オリパラ招致活動の停止に伴いアスリートとの要望活動は見送りとなったが、札幌市重点要望において、総合型HPSC誘致を要望 ・スポーツ医・科学を通じたアスリートへの支援体制の構築に向け、関係機関との連携を強化	▲

施策7 アスリートと連携したスポーツ機会の提供を充実させます

(1) アスリート等の派遣によるスポーツ機会の提供

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
アスリート・オリンピックの活用	運動部活動アスリート派遣事業(アスリート発掘・育成・活用事業)	中学校の運動部活動にアスリートを派遣して部員の競技力向上、指導者の指導力向上を推進。	2024:30運動部活動に派遣 派遣回数延べ400回	◎
	オリンピックスキャラン事業(アスリート発掘・育成・活用事業)	地域で行われるスポーツ体験会等へオリンピック等を派遣して地域のスポーツ活動の振興、地域の活性化を図る	2024:18イベントにオリンピック等を派遣。イベント参加者延べ5,415人。	
ウインタースポーツインストラクターの派遣	さっぽろっ子ウインタースポーツパワーアップ事業(ウインタースポーツ普及振興事業)	インストラクターの派遣により、学習環境の充実を図るとともに、ウインタースポーツに親しむ習慣を育む	2024:スキー授業及び歩くスキー授業にインストラクターを派遣。 スキー学習支援 派遣72校延べ1,341人 歩くスキー 派遣9校延べ98人	◎
大学のスポーツ資源を生かした連携	大学との連携によるスポーツ振興	大学施設を活用した事業、大学部活動との連携によるスポーツイベントの実施など	複数の部局において、大学と連携した取組を実施。	○

自己評価基準	◎:当初の予定通り事業を実施できたもの ○:概ね予定通り事業を実施できたもの ▲:予定通り事業を実施できなかったもの又は、計画最終年度において事業化に至らなかったもの -:外的要因等により実施しないこととしたもの又は規模を大幅に縮小したもの
--------	---

目標2 ひとつひとつがスポーツでつながる共生のまち

方針4 障がい者スポーツの推進

施策8 障がいの有無を問わずスポーツに親しめる機会を創出します

(1) 障がい者スポーツの普及振興の促進

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
障がい者スポーツ体験会の実施	障がい者スポーツ体験会の実施	様々な競技の体験会を実施し、障がい者スポーツの裾野拡大や市民理解の促進を図る。	「障がい者スキー普及促進事業」と合わせて、計12,375名が参加。	◎
障がい者スポーツ指導者養成講習会の開催	障がい者スキー普及促進事業	障がいのある方のウインタースポーツの裾野拡大を目的として、バイスキー・シットスキーの指導者養成講習会及び体験会を開催	「障がい者スポーツ体験会の実施」と合わせて、計12,375名が参加。	◎
障がい者スポーツ普及促進協議会の運営	障がい者スポーツ普及促進協議会の設置	学識経験者をはじめ、障がい者団体や競技団体、スポーツ施設運営者など多様な関係者からなる協議会を設置し障がい者スポーツの普及促進を図る	計3回開催。	◎
障がい者スポーツに関する情報提供の充実	障がい者スポーツ普及促進事業	障がい者スポーツの体験会や講習会の開催などに際して、多くの方々に情報を届けるため、市公式ホームページやSNSのほか、チラシやポスターも活用するなど、複数種の媒体を活用した。また、市内の特別支援学校や障がい保健福祉関係の事業所に対して、障がいのある児童(その保護者)や利用者への個別周知に関する依頼を図った。	体験会参加者人数11,838人(2023:6,100人)	◎

(2) 障がい者スポーツ大会の開催や選手派遣への支援

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
札幌市障がい者ス	全国障害者スポーツ大会札幌市選手団派遣	全国障害者スポーツ大会に札幌市選手団を派遣	札幌市選手団93名を派遣。	◎

札幌市障がい者スポーツ大会の開催や選手派遣支援	札幌市障がい者スポーツ推進事業補助金 障がい者スポーツ大会開催事業	障がい者スポーツ大会開催事業や選手団派遣に係る交通費等への助成	計6大会(選手の派遣費または開催費)に対する補助を実施。	
障がい者スポーツ大会の誘致及び開催支援	国際スポーツ大会等誘致促進事業	市内の障がい者(身体・知的・精神)を対象としたスポーツ大会(通称すずらんピック)を開催 冬季オリパラ招致に向け、ウインタースポーツ競技を中心に国際大会等を誘致するため、競技団体等の主催者に開催経費を補助	すずらんピック開催(参加者数:1234名(役員含)) ・バルクールプレミアカップ ・FISパラノルディックスキーアジアカップ札幌大会 ・3X3.EXE TOURNAMENT	◎

施策9 障がい者スポーツの実施環境を整備します

(1) 障がい者スポーツの拠点づくり

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
障がい者スポーツセンターの設置検討	障がい者スポーツセンター調査検討事業	障がいの有無に関わらず誰もがスポーツを楽しめる環境をつくるため、障がい者スポーツセンター整備の検討を進めます。	基本構想の策定を次年度以降に見送り	▲
学校開放における障がい者スポーツ優先枠の設定	障がい者スポーツ専用の学校開放	障がい者スポーツの活動の場の拡充を目的として、学校開放における障がい者スポーツ優先枠を設定します。	専用開放:1校、優先開放:7校 ※2024に優先開放の対象校を1校から7校に拡大。	◎
スポーツ施設におけるアスリート枠・障がい者スポーツ枠新設の検討【再掲】	スポーツ施設の戦略的活用	アンケート調査の実施	アンケート調査の実施(令和6年3月実施)	○

(2) スポーツ施設のアクセシビリティ向上

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
スポーツ施設の計画的な保全、改修【再掲】	札幌ドーム保全事業 スポーツ施設リフレッシュ事業 厚別公園競技場保全事業 藤野野外スポーツ交流施設リニューアル事業	計画的に保全改修を行い、大規模イベントなどを継続的に開催できる環境を保ちます。 市民が安全・安心・快適にスポーツに親しめる環境を維持していくため、スポーツ施設の計画的な保全、改修、大型備品の更新を行います。 トラック全面改修や競技関連備品の購入を行い、全国大会や国際大会の開催ができる陸上競技場とします。 市民が安全で快適にスポーツを楽しめる環境を整えるために藤野野外スポーツ交流施設(フズ)の老朽化が進んでいるリフトの更新を行います。	(計画期間中の保全実施率) 2024:39% (保全業務等の実施により延命化できた計画期間中の累計施設数) 2024:12施設 (世界陸連クラスⅡ認証及び日本陸連第1種の公認継続) 2024:公認 (リフトの更新) 2024:更新工事	◎
障がいの種別や特性を考慮した誰もが利用しやすいスポーツ施設の運営	各区体育館等において指定管理者が実施	各区体育館等の指定管理者である札幌市スポーツ協会では「障がいのある方への配慮のガイドライン」を策定し誰もが利用しやすい施設運営を行う	障がいのある方への配慮のガイドライン(H28.10策定、H30.5改定)に基づき、誰もが利用しやすい運営を行い、共生社会の実現を目指す。	○
スポーツ施設におけるバリアフリーマップ導入の検討	各区体育館等において指定管理者が実施	各区体育館等の指定管理者である札幌市スポーツ協会において「バリアフリーマップ」の導入を検討	HPのフロアマップにおいて、多目的トイレなどの表示を行っているが、より誰もが使いやすいバリアフリーマップの作成へ向けて、他企業や団体などの情報収集を行い、札幌市のスポーツ施設におけるマップのあるべき姿の検討を進めている。	○
スポーツ施設ホームページのアクセシビリティ向上	各区体育館等において指定管理者が実施	各区体育館等の指定管理者である札幌市スポーツ協会では「ウェブアクセシビリティ方針」を策定し誰もが利用しやすいホームページ運営を行う	ウェブアクセシビリティ方針が策定され、ホームページ上に公開されている。 ホームページのJIS X 8341-3:2016に基づいた試験が行われており、適合レベルAAに準拠している。	○

方針5 スポーツを通じた交流機会の創出

施策10 スポーツを通じた国際交流や異文化理解を推進します

(1) スポーツを通じた国際交流の推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
国際交流を目的とした国際スポーツ大会への参加支援	さっぽろアスリートサポート事業【再掲】(国際交流の部) 国際スポーツ大会等誘致促進事業【再掲】	次世代のトップアスリート育成のため、各種大会参加経費等へ補助 冬季オリパラ招致に向け、ウインタースポーツ競技を中心に国際大会等を誘致するため、競技団体等の主催者に開催経費を補助	大会出場支援件数 累計870件(2024:計262件) ・バルクールプレミアカップ ・FISパラノルディックスキーアジアカップ札幌大会 ・3X3.EXE TOURNAMENT	◎
国際大会の開催を契機とした国際交流の実施	札幌国際交流館国際交流事業	札幌国際交流館において、市民と外国籍市民等とがスポーツを通じて相互理解及び親善を深められる事業を実施	(スポーツ・文化活動を通じた国際交流事業の実施件数) 2024:186件	◎

施策11 スポーツを支える人材を育成し、活躍の場を拡大します

(1) スポーツボランティアの育成と推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
スポーツボランティアの活動及び研修機会の充実	スポーツボランティアの管理運営(地域スポーツコミッション事業)	スポーツボランティア(スマイル・サポーターズ)の派遣、研修等を行う。	・プロスポーツチーム等への派遣など、活動範囲を拡大し、ボランティアのスキル、ノウハウ、満足度の向上を図った。 ・ボランティアのスキルアップや裾野の拡大を目指し、各種研修の拡充や市内大学との連携(スポーツボランティアの講義)を強めた。	◎
スポーツボランティアに関する情報提供の充実	スポーツボランティアの管理運営(地域スポーツコミッション事業)	スポーツボランティアに関する情報提供の充実	・HP・会報誌・ポスター掲示や市内大学への講演などを通じて、適宜効果的な周知を行った。	○

(2) スポーツ推進委員の活動促進

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
研修会の開催及び派遣	スポーツ推進委員の活動促進	札幌市スポーツ推進委員の資質向上を図るため、新任スポーツ推進委員研修会や全体研修会を開催しているほか、各都市が持ち回りで開催している全国スポーツ推進委員研究協議会、全道スポーツ推進委員研究協議会に代表者を派遣。	新任スポーツ推進委員研修会、全体研修会を各1回開催。全国スポーツ推進委員研究協議会に5名を派遣。(2024年度は全道スポーツ推進委員研究協議会は派遣なし。)	◎
スポーツ大会等における活動促進	スポーツ推進委員の活動促進	札幌市及び各区スポーツ事業への参画・協力をはじめ、各地域、町内会等の住民組織及び地域スポーツ団体と連携し、市民の健康・体力づくりに向けた事業の企画・運営・指導等を実施	2024:21件	◎

(3) クリーンでフェアなスポーツの推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
指導者講習会の開催	さっぽろっ子スケートチャレンジ検定	札幌スケート連盟の監修により札幌市オリジナルの初心者向けスケート検定を開催。子どもがスケートに親しみきっかけを創出することで、スケートへの参加促進を図るとともに、少年団等において継続的に取り組む意欲を醸成することを目的に実施するもの。本事業の一環として検定員として活躍する指導者を養成するため講習会を実施している。	年1回開催。R6年度実績では、21名の検定員が参加。	◎

方針6 スポーツを見る機会の充実

施策12 トップスポーツチームと連携し、トップレベルのスポーツ観戦機会を創出します

(1) トップスポーツチームとの連携によるスポーツ観戦機会の創出

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
プロスポネットSAPPOROによる取組	プロスポネットSAPPORO連携(みるスポーツ推進事業)	札幌市に拠点を持つ4つのプロスポーツチーム(ファイターズ、コンサドーレ、レバンガ、エスポラーダ)と連携して観戦文化の醸成を図る	年間実施数 2024年度:13事業 ・区民応援デー ・キッズデー ・共通カレンダー作成 ・合同動画放映 ・シティドレッシング ・豊平公園駅パネル ・雪かき汗かきチャレンジ ・札幌マラソンコラボ ・チャレンジ!スポーツパークコラボ ・FISジャンプワールドカップコラボ ・プロスポネットSAPPOROチャレンジフェスタ ・レッドイーグルス北海道の札幌戦におけるブース出展 ・プロスポネットPRコーナー設置	◎
大和ハウスプレミストドーム周辺活用の推進【再掲】	札幌ドーム周辺活用推進事業【再掲】	高次機能交流拠点である「札幌ドーム周辺」において、スポーツや集客交流産業の振興などに関わる拠点性および札幌の魅力と活力の向上を先導することを旨とした「スポーツ交流拠点」を整備します。	・札幌ドーム周辺におけるスポーツ交流拠点の形成に向け、民間事業者2者から提案された事業手法などの精査を行うとともに、その内容も参考に拠点整備の方向性について検討を進めた。	▲
大和ハウスプレミストドームの活用促進【再掲】	札幌ドーム利用料金減免補てん補助金(みるスポーツ推進事業) 札幌ドーム活用促進	コンサドーレが札幌ドームで試合を開催する際の基本使用料について、ホームタウンとして減免することで自立経営への取り組みを支援 札幌市、榊コンサドーレ、榊レバンガ北海道、榊札幌ドームによる4者連携協定に基づき、これまでに札幌ドームで開催されていないイベント等を行う際の支援をすることで、新たなイベント等の誘致を促進し、ドームの活用促進を図ります。また、コンサドーレ札幌戦開催時に会場や街全体を使った広報展開により、集客増を目指し、ドームの活用促進を図ります。	札幌ドームにおいて22試合を開催。 1試合平均入場者数15,619人 主催者支援を実施し、下記の新規イベントを開催された。 ・トミカ博inSAPPORO(1/2~1/5) ・道新秋華火(9/15) ・JAL さっぽろスノースポーツパーク 2025(2/7~2/9) また、北海道コンサドーレ札幌戦における来場者プレゼントやテレビCM、ラジオ番組を活用した各種ドーム開催イベントの広報を実施	◎

(2) トップスポーツなどの試合開催支援

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
トップレベルの試合や国際試合を開催する際の広報・シティドレッシングの実施	みるスポーツ推進事業	札幌で開催されるトップレベルの試合に併せて、札幌駅前通地下歩行空間の壁面や柱に広告を掲示するほか、親子の試合無料招待を実施します。また、国際大会の開催時には市内でパブリックビューイングを実施し、「みる」スポーツを推進します。	2024年度:25試合	◎

施策13 市民のスポーツ観戦機会充実させます

(1) 市民の気軽なスポーツ観戦に向けた取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
親子の無料招待の実施	みるスポーツ推進事業【再掲】	札幌で開催されるトップレベルの試合に併せて、札幌駅前通地下歩行空間の壁面や柱に広告を掲示するほか、親子の試合無料招待を実施します。また、国際大会の開催時には市内でパブリックビューイングを実施し、「みる」スポーツを推進します。	2024年度:25試合	◎

パブリックビューイングの実施	みるスポーツ推進事業	札幌で開催されるトップレベルの試合に併せて、札幌駅前通地下歩行空間の壁面や柱に広告を掲示するほか、親子の試合無料招待を実施します。また、国際大会の開催時には市内でパブリックビューイングを実施し、「みる」スポーツを推進します。	未実施（R6年度については実施予定なし）	-
(2) 様々なスポーツを観戦する機会の充実				
具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
国際大会などの誘致・開催	国際スポーツ大会等誘致促進事業【再掲】	冬季オリパラ招致に向け、ウインタースポーツ競技を中心に国際大会等を誘致するため、競技団体等の主催者に開催経費を補助	・パルクールプレミアカップ ・FISパラノルディックスキーアジアカップ札幌大会 ・3X3.EXE TOURNAMENT	◎
アクションスポーツなどの新たなスポーツ分野の大会・イベントの誘致・開催	国際スポーツ大会等誘致促進事業【再掲】	冬季オリパラ招致に向け、ウインタースポーツ競技を中心に国際大会等を誘致するため、競技団体等の主催者に開催経費を補助	・パルクールプレミアカップ ・3X3.EXE TOURNAMENT	◎

自己評価基準	◎：当初の予定通り事業を実施できたもの ○：概ね予定通り事業を実施できたもの ▲：予定通り事業を実施できなかったもの又は、計画最終年度において事業化に至らなかったもの -：外的要因等により実施しないこととしたもの又は規模を大幅に縮小したもの
--------	---

目標3 スポーツによりにぎわいがあふれているまち

方針7 スポーツを通じた地域・経済の活性化

施策14 国際大会やスポーツイベントの開催・誘致を促進します

(1) さっぽろグローバルスポーツコミッションによる取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
国際大会の誘致・開催【再掲】	国際スポーツ大会等誘致促進事業【再掲】	冬季オリパラ招致に向け、ウインタースポーツ競技を中心に国際大会等を誘致するため、競技団体等の主催者に開催経費を補助	・パルクールプレミアカップ ・FISパラノルディックスキーアジアカップ札幌大会 ・3X3.EXE TOURNAMENT	◎
海外代表合宿の誘致	国際競技大会や事前合宿等の誘致（地域スポーツコミッション事業）	札幌市、北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することで、国際競技大会や事前合宿の誘致、開催支援を行う。	・海外代表選手団の合宿等の実績は無し	▲
アクションスポーツなどの新たなスポーツ分野の大会・イベントの誘致・開催【再掲】	国際スポーツ大会等誘致促進事業【再掲】	冬季オリパラ招致に向け、ウインタースポーツ競技を中心に国際大会等を誘致するため、競技団体等の主催者に開催経費を補助	・パルクールプレミアカップ ・3X3.EXE TOURNAMENT	◎

(2) 市街地におけるクロスカントリースキー大会の開催

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
アスリートを対象としたクロスカントリースキー大会の開催支援	シティクロスカントリースキー大会実証実験事業	将来の国際大会誘致を見据えながら、市街地におけるクロスカントリースキー競技大会の開催に向けた実証実験を行う	大和ハウスプレミストドームの敷地全体を使用し、さっぽろ雪まつり特別連携行事として「さっぽろスノースポーツパーク2025」を開催し、当イベントのコンテンツの一つとしてクロスカントリースキー大会を実施	◎

(3) プロスポーツチーム等と連携した取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
大和ハウスプレミストドームの活用促進【再掲】	札幌ドーム活用促進【再掲】	札幌市、㈱コンサドーレ、㈱レバンガ北海道、㈱札幌ドームによる4者連携協定に基づき、これまでに札幌ドームで開催されていないイベント等を行う際の支援をすることで、新たなイベント等の誘致を促進し、ドームの活用促進を図ります。また、コンサドーレ札幌戦開催時に会場や街全体を使った広報展開により、集客増を目指し、ドームの活用促進を図ります。	各種主催者支援を実施し、下記の新規イベントを開催された。 ・トミカ博inSAPPORO(1/2~1/5) ・道新秋華火(9/15) ・JAL さっぽろスノースポーツパーク 2025(2/7~2/9)	◎

施策15 札幌の特色を生かし、道内市町村とも連携したスポーツ・観光コンテンツを造成します

(1) さっぽろグローバルコミッションによる取組（再掲）

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
国際大会の誘致・開催【再掲】	国際スポーツ大会等誘致促進事業【再掲】	冬季オリパラ招致に向け、ウインタースポーツ競技を中心に国際大会等を誘致するため、競技団体等の主催者に開催経費を補助	・パルクールプレミアカップ ・FISパラノルディックスキーアジアカップ札幌大会 ・3X3.EXE TOURNAMENT	◎
マラソントーリズムの推進	スポーツツーリズム推進（地域スポーツコミッション事業）	東京2020大会のマラソン競技のコースを活用したモデルコースの設定やランニングイベント支援等を行う。	・東京2020大会のマラソン競技のコースを活用したモデルコースの紹介をすることで市民や旅行者のランニング意欲を喚起。 ・韓国・大田広域市において開催される「三大河川マラソン」や台湾・高雄市の「高雄富邦マラソン」を契機とした相互交流を実施。	○

ナイトクロカン事業	スポーツツーリズム推進 (地域スポーツコミッション事業)	札幌ならではの冬の観光コンテンツとして、市内の歩くコースを活用し、「クロスカントリースキー体験の夜間営業」と「イルミネーション演出」を一体的に体験できるエリアの設置。	令和7年2月1日～5日まで中島公園でクロスカントリー体験、イルミネーション装飾及び雪のモニュメントの制作・展示を行い、5日間で延べ3,843名の来場があった。	○
スキープロモーションの実施	スポーツツーリズム振興 (地域スポーツコミッション事業)	・札幌市、北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することで、ウインタースポーツを中心とするスポーツツーリズムを推進する。	・海外向けプロモーションについて、現地の商談会へ出展しプロモーションを実施(台北、中国等) ・スノーベースタウン事業の実証実験のため、定山溪をベースとした道内スキー場へのモニターツアーを実施 ・ナイトクロカンin中島公園を実施	○

(2) 市民スポーツ大会の開催支援

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
市民スポーツ大会や大型市民スポーツイベントの開催	スポーツ事業助成事業	各種スポーツ大会への助成	2024:大会参加者数 ・札幌市民スポーツ大会:17,560人 ・札幌マラソン:11,796人 ・北海道マラソン:19,450人 ・札幌国際スキーマラソン:767人 ・北海道を歩こう:1,081人	◎

施策16 札幌のスポーツ資源を活用し、スポーツによるにぎわいづくりを推進します

(1) 札幌の魅力を生かした観光資源の活性化検討

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
札幌オリンピックミュージアムの魅力アップ	オリンピックミュージアム魅力アップ調査事業	札幌オリンピックミュージアムの魅力の向上や集客力強化のため、体験装置や展示物の更新を検討します。	調査実施	◎
大倉山ジャンプ競技場の機能向上	スポーツ施設再整備事業【再掲】	今後の人口減少や超高齢社会、多様化するニーズに対応したスポーツ施設の再配置・再整備を行うため、美香保体育館更新や大倉山ジャンプ競技場等の改修を実施します。	【大倉山ジャンプ競技場】大倉山ジャンプ競技場等に係る改修の考え方を公表した。また、環境調査(春、夏、秋)を実施した。	○
大和ハウスプレミストームの活用促進【再掲】	札幌ドーム活用促進【再掲】	札幌市、(株)コンサドーレ、(株)レバンガ北海道、(株)札幌ドームによる4者連携協定に基づき、これまでに札幌ドームで開催されていないイベント等を行う際の支援をすることで、新たなイベント等の誘致を促進し、ドームの活用促進を図ります。 また、コンサドーレ札幌戦開催時に会場や街全体を使った広報展開により、集客増を目指し、ドームの活用促進を図ります。	各種主催者支援を実施し、下記の新規イベントを開催された。 ・トミカ博inSAPPORO(1/2~1/5) ・道新秋華火(9/15) ・JAL さっぽろスノースポーツパーク 2025(2/7~2/9)	◎
スキーを始めとしたウインタースポーツ体験の機会創出	都心における冬のアクティビティ創出事業	都心部に冬のスケートリンクを設置するとともに、ホワイトイルミネーションの活用等により夜間観光の魅力を高めることで、札幌ならではの新たな体験型コンテンツを創出	開催日数 2024:11日	○

(2) プロスポーツチームとの連携によるシティプロモート

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
プロスポネットSAPPOROによる取組【再掲】	プロスポネットSAPPORO連携【再掲】 (みるスポーツ推進事業)	札幌市に拠点を持つ4つのプロスポーツチーム(ファイターズ、コンサドーレ、レバンガ、エスポラーダ)と連携して観戦文化の醸成を図る	年間実施数 2024年度:13事業 ・区民応援デー ・キッズデー ・共通カレンダー作成 ・合同動画放映 ・シティドレッシング ・豊平公園駅パネル ・雪かき汗かきチャレンジ ・札幌マラソンコラボ ・チャレンジ!スポーツパークコラボ ・FISジャンプワールドカップコラボ ・プロスポネットSAPPOROチャレンジフェスタ ・レッドイーグルス北海道の札幌戦におけるブース出展 ・プロスポネットPRコーナー設置	◎

方針8 誰もが気軽にウインタースポーツを楽しむことができる環境の充実

施策17 ウインタースポーツを体験できる機会を充実させます

(1) ウインタースポーツの裾野拡大に向けた取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
ウインタースポーツ塾の開催	ウインタースポーツ塾【再掲】 (アスリート発掘・育成・活用事業)	子どもたちを対象に自由に参加できる「さっぽろっ子スケートチャレンジ検定」の実施やウインタースポーツを体験できる機会を提供します。 体験会実施種目:クロスカントリースキー、ジャンプ、リュージュ、スノーボード、カーリング、フィギュアスケート	2024:「さっぽろっ子スケートチャレンジ検定」は延べ929人が参加。体験会は、夏期520人、冬期は1,580人の参加があった。	○
ウインタースポーツ少年団の活性化	ウインタースポーツ競技団体とのマッチング (アスリート発掘・育成・活用事業)	ウインタースポーツ少年団の活性化を図るため、体験練習会の開催や広報を支援	2024:カーリング体験会、親子フィギュアスケート体験会、リュージュ体験会を実施し540人が参加。このほか、市役所ホームページに少年団情報を掲載し、ジャンプ少年団の体験会広報チラシを配布した。	○
カーリング競技の普及	カーリング普及促進事業【再掲】 (アスリート発掘・育成・活用事業)	カーリングに親しみきっかけづくりのほか、競技力向上を目指し継続的に取り組む環境の提供します。	2024:493名(154回) 競技力向上のため行ったレベル別カーリングスクールには2,495名(573回)の参加があった。どうぎんカーリングスタジアムの改修工事が2024年2月から10月まであったため例年に比べ参加者は減少している。	○

ウィンタースポーツインストラクターの派遣【再掲】	さっぽろっ子ウィンタースポーツパワーアップ事業【再掲】(ウィンタースポーツ普及振興事業)	インストラクターの派遣により、学習環境の充実を図るとともに、ウィンタースポーツに親しむ習慣を育む	2024: スキー授業及び歩くスキー授業にインストラクターを派遣。 スキー学習支援 派遣72校延べ1341人 歩くスキー 派遣9校延べ98人	◎
北海道コンサドーレ札幌との連携によるウィンタースポーツの普及振興	北海道コンサドーレ札幌との連携によるウィンタースポーツの普及振興	コンサドーレの情報発信力や興行ノウハウをいかし、ウィンタースポーツの普及振興や観戦文化の醸成を目指します。	ジャンプW杯札幌大会協力(マスコットキャラクター派遣)	◎
企業等と連携したウィンタースポーツイベントの開催	企業等と連携したウィンタースポーツイベントの開催(アスリート発掘・育成・活用事業)	アスリートが所属する企業と連携した体験会等の開催や、企業が開催するイベントに対する広報支援などを実施します。	[育成事業における累計対象選手数] 2024: 483人	○
施設の更新に併せたスポーツ実施環境の改善	スポーツ施設再整備事業【再掲】	今後の人口減少や超高齢社会、多様化するニーズに対応したスポーツ施設の再配置・再整備を行うため、美香保体育館更新や大倉山ジャンプ競技場等の改修を実施します。	【美香保体育館】 美香保体育館の後継施設である新スケート・カーリング場について、つどーむ敷地における施設整備に係る基本計画を策定した。	○

(2) 気軽に行うことのできるウィンタースポーツの普及

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
歩くスキーの普及振興	歩くスキー普及振興事業	市民が手軽にウィンタースポーツを楽しめる環境づくりのため、中島公園及び白旗山競技場に歩くスキーコースを設置し無料で開放する	中島公園利用者数: 9,982人 白旗山利用者数: 2,041人	◎
カーリング競技の体験機会の提供	どうぎんカーリングスタジアムにおけるスポーツ教室事業等(体育施設運営管理事業)	気軽にカーリングを体験できる機会として、体験教室や団体向けレクリエーションを開催	観光客向け、市内団体(町内会や学校等)向けに体験会を開催し、330団体を受け入れ、約4,836人の参加があった。	○

(3) ウィンタースポーツ観戦文化の醸成

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
ウィンタースポーツシーズンにおける大会情報の発信	ウィンタースポーツ観戦文化醸成	プロスポーツチームと連携し、ホームページやSNSなどにおけるスキージャンプワールドカップ大会などの大会情報の発信に取組みます。	W杯男子: 1試合平均1,900人(2日間合計3,800人) W杯女子: 1試合平均1,950人(2日間合計3,900人) サマージャンプ大会: 1試合平均930人(2日間合計1,860人) (目標: 来場者数1試合平均 5,000人(サマージャンプ3,000人))	▲
ウィンタースポーツ競技大会の開催支援	ウィンタースポーツ観戦文化醸成【再掲】(ウィンタースポーツ普及振興事業)	スキージャンプワールドカップ大会などの観戦環境の充実に取組み、ウィンタースポーツ観戦者の増加を図ります。	W杯男子: 1試合平均1,900人(2日間合計3,800人) W杯女子: 1試合平均1,950人(2日間合計3,900人) サマージャンプ大会: 1試合平均930人(2日間合計1,860人) (目標: 来場者数1試合平均 5,000人(サマージャンプ3,000人))	▲

施策18 ウィンタースポーツ実施に向けた支援を充実させます

(1) ウィンタースポーツの経済的負担の軽減

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
ウィンタースポーツ実施時の利用料金等の助成	さっぽろっ子ウィンタースポーツ料金助成【再掲】(ウィンタースポーツ普及振興事業)	ウィンタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してリフト料金・スケート貸料金の助成を行い、スキー、スケートに親しむ機会を創出します。	2024: 料金補助券を配付(スケート貸靴料金、スキーリフト料金、スキーレンタルセット料金)使用者数延べ23,882人。	○
児童生徒を対象としたリサイクルスキーの提供	さっぽろっ子スキーリサイクル	スキー学習に向けた保護者の負担軽減を目的として、市民からリサイクル可能なスキー用具を回収し有効活用する。	市民からリサイクル可能なスキー用具を回収して、1,474セットの用具を必要とする家庭に配付した。	◎
さっぽろアスリートサポート事業【再掲】	さっぽろアスリートサポート事業【再掲】	次世代のトップアスリート育成及び札幌市のスポーツ活動の充実と発展に寄与する団体・個人のスポーツ活動を促進します。	大会出場支援件数 累計870件(2024: 計262件)	◎

(2) 民間事業者による施設整備への補助(再掲)

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
スポーツ練習施設の整備補助	スポーツ施設整備費補助事業【再掲】	民間企業等が行うスポーツ施設の整備に対して、整備費の一部を補助することで、市民がスポーツに親しめる環境を整えるとともに、スポーツ活動の場を市民へ提供します。	補助件数6件(累計) (2019: 2件、2020: 1件、2022: 1件、2023: 1件、2024: 1件) (目標: 2022: 4件 → 2027: 14件)	▲

施策19 ウィンタースポーツ拠点を構築します

(1) スノーリゾートシティとしてのブランド化

具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
スノーベースタウンSAPPOROの促進	スノーベースタウンSAPPORO促進事業	札幌・定山渓をスキーヤーのベースタウンとし、市内及び周辺のスキーリゾートとの周遊を促進するため、インバウンド向けコンテンツの開発やモニターツアーの実施、情報誌や様々なメディアを活用した情報発信を行います。	1 プロモーション活動 ・台北国際旅行博(ITF)出展 ・中国国債旅游交易会(CITM)出展 ・AGT招聘&定山渓ホテル説明会 2 モニターツアーの実施 ・1月17日～2月10日の間に5回のモニターツアーを実施 ・参加者数は合計49名	○

スノーリゾート推進事業	スノーリゾート推進事業	スノーリゾートシティSAPPORO推進戦略に基づき、スノーリゾートとしてのブランド化に向けて、市内スキー場の魅力向上やスキー場と関連事業者の連携事業支援、冬季観光コンテンツの充実等に取り組みます。	冬季来札観光客の市内スキー場認知度(海外) 2024:56.2% (目標:2022:56.9% → 2027:75.8%)	▲
(2) オリンピック・パラリンピック教育の推進				
具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
オリンピック、パラリンピアンを招へいし、講話や体験活動を行う学校教育	オリンピック・パラリンピック教育推進事業	オリンピック・パラリンピック教育研究推進校を指定し、教育課程に位置付けられている教育活動と関連を図ったオリンピック・パラリンピック教育の学習モデルづくりに係る研究を行い、その成果を全市に普及する。	オリンピックの講演、オリンピックミュージアムでの活動等のオリンピック・パラリンピック教育事業を、108校の小中学校で実施した。	○
札幌オリンピックミュージアムを活用した学校教育の推進	オリンピック・パラリンピック教育推進事業	オリンピック・パラリンピック教育研究推進校を指定し、教育課程に位置付けられている教育活動と関連を図ったオリンピック・パラリンピック教育の学習モデルづくりに係る研究を行い、その成果を全市に普及する。	オリンピックの講演、オリンピックミュージアムでの活動等のオリンピック・パラリンピック教育事業を、108校の小中学校で実施した。	○
札幌オリンピックミュージアムの魅力アップ【再掲】	オリンピックミュージアム魅力アップ調査事業	札幌オリンピックミュージアムの魅力の向上や集客力強化のため、体験装置や展示物の更新を検討します。	調査実施	◎
(3) 総合型ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）の誘致に向けた取組（再掲）				
具体的な取組	事業名	事業内容	2024年度実施状況	自己評価
HPSCや大学、アスリート、競技団体等との連携強化【再掲】	総合型ハイパフォーマンススポーツセンター誘致事業【再掲】	冬季オリパラ招致を目指す都市として、ウインタースポーツの振興や競技力の向上に向けて、総合型ハイパフォーマンススポーツセンターを誘致	・オリパラ招致活動の停止に伴いアスリートとの要望活動は見送りとなったが、札幌市重点要望において、総合型HPSC誘致を要望 ・スポーツ医・科学を通じたアスリートへの支援体制の構築に向け、関係機関との連携を強化	▲

【自己評価集計】

自己評価基準		再掲除く					(参考:単純集計)
		2024	2025	2026	2027	2028	2024
◎	当初の予定通り事業を実施できたもの	44					60
○	概ね予定通り事業を実施できたもの	28					35
▲	予定通り事業を実施できず今後に向けて検討を要するもの又は当該年度時点で事業化に至っていないもの	8					13
-	外的要因により未実施のもの又は規模を大幅に縮小したもの	3					3
◎及び○の割合		86.7%					85.6%
◎及び○の割合(分母から「-」を除く)		90.0%					88.0%

<参考>【前計画:札幌市スポーツ推進計画改定版における自己評価集計】

自己評価基準		再掲除く					(参考:単純集計)
		2019	2020	2021	2022	2023	2023
◎	当初の予定通り事業を実施できたもの	32	19	22	32	39	48
○	概ね予定通り事業を実施できたもの	42	40	40	39	36	38
▲	予定通り事業を実施できず今後に向けて検討を要するもの又は当該年度時点で事業化に至っていないもの	5	1	1	6	8	11
-	外的要因により未実施のもの又は規模を大幅に縮小したもの	6	25	22	8	2	2
◎及び○の割合		87.1%	69.4%	72.9%	83.5%	88.2%	86.9%
◎及び○の割合(分母から「-」を除く)		93.7%	98.3%	98.4%	92.2%	90.4%	88.7%